

# 千葉県私国立中入試概況

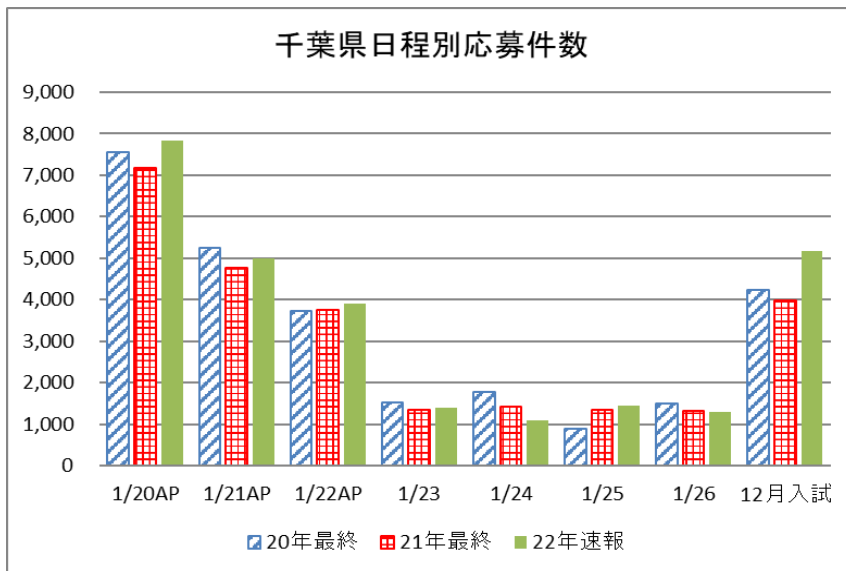
## 1. 概況 応募総数、実受験者数は増加、中学受験が拡大

千葉県の私立中学入試は12月1日開始の推薦(第一志望・専願)入試と、1月20日開始の一般入試の2種類です。今年度の県内公立小6児童数は約52,100名で、昨年度より約1,000名減っています。県内の公立中高一貫校を含む中学入試の応募総数は2月28日現在約32,000件でした。未公表の学校や入試があり、最終的にはもう少し上乗せされることとなります。昨年度の最終が約29,900件でしたから、約7%増加しています。

実際の受験者数は約27,500名で、昨年度の最終より約300名増加、合格者数は約10,400名で昨年度の最終より800名近く増えています。合格者数は、上位コース入試での入り易いコースへのスライド合格や、特待入試での一般合格を含んでいない学校があって、「入学できる」という意味ではもっと多くなります。

上のグラフは、この3年間の各校の入試の応募者数を日程別に合計して比較したもので、今年度は速報値です。12月の入試は、県立千葉・東葛飾に加えて、今年度から2段階選抜になった市立稲毛国際の1次と、私立各校の推薦・第一志望入試、12月実施の帰国生入試、書類選考ですが出願が12月になっている千葉大附属・1次の合計、APとあるのは午前入試と午後入試の合計です。1月21日には千葉大附属・2次、24日は公立一貫校の2次を含みません。

12月入試の応募者数は増えていますが、市立稲毛国際の応募者が加わったことが増加の中心で、私立だけならやや減っています。高難度になった東邦大東邦の応募者が減ったことで各校合計も減っています。1月の入試では1月20日から22日が応募者数の中心で、23日以降は小規模です。20日から22日の間では20日が最多、21日、22日と減っていますが、20日は約



600件、21日と22日は約200件の増加です。23日から26日は増減がいろいろありますが、合計では応募者が約200件減りました。

次に、難度別の応募状況も見てみます。グラフは次のページです。各校の応募者数を難易度別に上からA～Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べました。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年の受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外しています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子で合計しました。昨年は昨年用の予想難易度、今年度は今年用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とは異なる場合があります。グループの学校はグラフの下に一覧で表示しています。

千葉県の特徴は男女とも難関校のAグループが最多になっていることで、東京23区や多摩地区、神奈川県とは異なります。男女ともAグループが最多なのは同じですが、男子のAグループへの集中度合いは女

子よりも高く、その分C・Dグループ校の応募者が少なくなっています。こうした傾向になるのは、東京23区などからの受験生の流入が多く、これらの受験生はAグループ校を狙うケースが多いためです。

昨年度との比較では、男子はAグループがわずかに減っていて、Bグループは約200件の増加、C、Dグループはやや減少、Eグループは300件以上増えています。Eグループは他都県からの受験生の流入があまり多くなく、県内の中学受験の拡大が増加の理由でしょう。女子はAグループが昨年並み、Bグループは約200件、Cグループは約100件、Dグループが約700件、Eグループが約400件増えています。安全志向の強まりとともに、中学受験のすそ野の拡大が応募者の増加に結び付きました。

以下、地域別に各校の状況を見ていきます。公立一貫校はまとめて別稿で取り上げます。

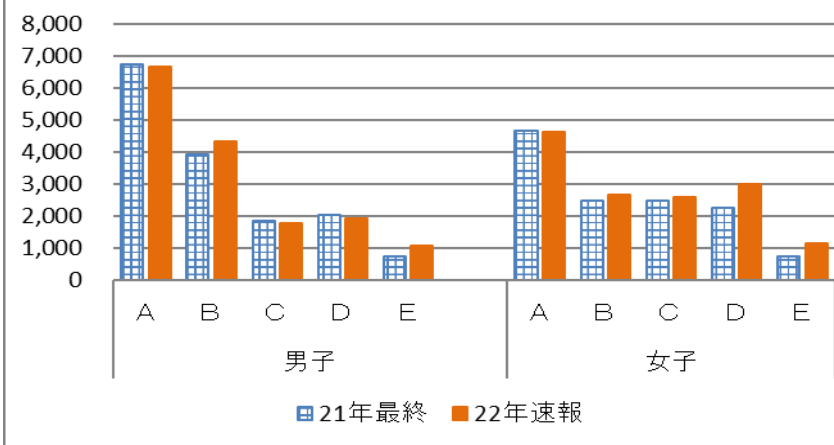
## 2. 市川市～千葉市方面

まず女子校から。国府台女子学院の各回次合計の応募者数は、2020年度は増加していましたが、昨年度、今年度と少し減っています。実際の受験者数も同じ傾向ですが、合格者数は昨年度より増えていて、実質倍率は少し緩和しています。合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度に変化はなさそうです。応募者の減少も、受験生が絞られた結果だったようです。

和洋国府台女子は12月の帰国生入試を取りやめました。各回次合計の応募者数は、昨年度は少し減っていましたが、今年度は増加しています。各回次とも増えていますが、1月20日の一般1回が一番大きく、併願受験生が増加の中心です。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、各回次とも難度はあまり変わっていないようです。

続いて男女校です。トップ校の渋谷幕張は、2020年

千葉県難易度別応募者数



◎ 難易度別グルーピング

本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で千葉県私国立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。なお、芝浦工大柏はGSの応募者を区分できないためBに、昭和学院と二松学舎大附柏の、応募者の希望コースを区分できない入試はEとしています。

- A…市川・渋谷幕張・昭和学院秀英・東邦大東邦
- B…芝浦工大柏・専修大松戸・千葉大附属・麗澤(AE)
- C…国府台女子・千葉日大第一・成田高付属・麗澤(E E)
- D…光英 VERITAS(特待)・昭和学院(I A・AA)・東海大浦安  
 ・二松学舎大附柏(特選・グローバル)・日出学園・八千代松陰  
 ・和洋国府台女子
- E…暁星国際・光英 VERITAS(一般)・三育学院・志学館・秀明八千代  
 ・翔稟・昭和学院(GA)・西武台千葉・千葉明德・二松学舎大附柏(総合)

度は各回次合計の応募者数がやや増えていて、2月2日の2次が増加の中心でした。昨年度は合計の応募者数が減っていて、1月22日の1次、2月の2次の男女とも減りました。今年度は1月20日の帰国生入試と1次の応募者が増加、2次は昨年度並みでした。男女別では女子が男子よりも増えていて、女子のトップレベル受験生が増えています。合格最低点は帰国生入試が昨年度並み、1次と2次は上昇、高難度がさらに少し難化しています。

東邦大東邦は原則完全一貫校です。2020年度まで各回次合計の応募者数は少しずつ増え続けていましたが、昨年度は減少、今年度は昨年度並みです。12月の帰国生入試は男女とも昨年並み、推薦入試は男女とも減少、1月21日の前期と2月3日の後期は男子が昨年並み、女子は増えています。推薦入試の減少は、極端な高倍

率でしたから敬遠でしょう。それでも男子14.3倍、女子18.1倍の実質倍率です。合格最低点は帰国生入試が昨年度並み、それ以外は下がっていますが、推薦入試は高倍率ですから、少々下がっても入り易くはなりません。前期は小幅なので難度変化はなさそうです。後期はかなり下がっていますが、昨年が高すぎて、実力よりも「いかにミスをしないか」といった入試になっていたことで、出題を少し見直したのかもしれませんが。必ずしも入り易くなったとは言えないようです。

例年、幕張メッセで大規模な入試を行うことで有名な市川は12月の帰国生入試を曜日の関係で1日前倒しにしました。2020年度は各回次合計の応募者数が前年度並み、昨年度は少し減りましたが、今年度は少し増えています。1月20日の1回、2月4日の2回の男子受験生の増加が増加の中心です。合格最低点は1回、2回男女とも少し上がっています。やや難化したようです。

昭和学院秀英は、2020年度、昨年度と、各回次合計の応募者数が減っていましたが、今年も減っています。難化が進んだための敬遠でしょう。今年度は少し合格者を増やしていて、1月20日午後の特別、22日午前の1回、2月2日午前の2回とも合格最低点は下がっています。高難度の学校ですが、やや入り易くなったようです。

千葉日大第一は、12月の第一志望入試を自己推薦入試に変更、1月26日の2期は4科から2科に変更しました。2020年度、昨年度と、人気が上がって応募者が増加、難化傾向でしたが、今年度は12月の自己推薦と1月21日の1期で応募者の増加が続きました。2期は減って、合計では昨年度並みです。人気上昇は続いているものの、2期は高倍率なので断念した受験生もいたのでしょう。合格最低点は自己推薦が昨年並み、1期は少し上がり、2期は入試科目の変更で単純比較できませんが、得点率は昨年度並みで、1期はやや難化したかもしれません。

東海大浦安も付属カラーが強い学校です。各回次合計の応募者数は、2018年度から増加が続いていて、今年度も増加して人気が上がっています。各回次とも増えています。増加の中心は1月20日のA入試で、男子の増加が目立ちます。12月の推薦は合格最低点が未公表、A入試は昨年並みで、どちらも難度に変化はなさそうですが、24日のB入試は下がっています。出題

内容との関係はありますが、やや入り易くなったかもしれません。

日出学園は特に入試に変更点はありません。各回次合計の応募者数は5年連続で増加していましたが、昨年度は少し減りました。しかし今年度は再び増加しています。1月20日のI期と23日のII期が増加の中心で、女子も増えていますが、男子の増加が大きくなっています。2月1日午後の口頭試問型のサンライズ入試は性格上、合格最低点は公表されていませんが、12月の推薦とI期は昨年度並みの合格最低点で、難度は特に変わっていないようです。II期はやや上がっていますが、難化というほどではなさそうです。

昭和学院は2020年度にコース制を大きく改編、新体制に切り替わりました。インターナショナルアカデミー (IA)、アドバンスアカデミー (AA)、ジェネラルアカデミー (GA) の3コース制です。今年度は国語1科入試を新設、1月20日午後のマイプレゼンテーション入試を午前に移しました。各回次合計の応募者数は2019年度が増加、2020年度はさらに大きく増加しましたが、昨年度は少し減りました。しかし今年度は再び増加しています。実際の受験者数、合格者数も増えていて、本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、高い人気ですから、やや難化したかもしれません。

千葉明德は1月21日午後の算数1科入試を取りやめ、2月5日午前に一般4回を新設、他の入試も日程のこまかい変更や、適性検査型入試での英語の追加などの変更が出ています。適性検査型入試での英語の実施は、公立一貫校の市立稲毛が完全一貫校の市立稲毛国際に改編されるのに伴って、適性検査に英語が出題されるため、併願受験生対応として行うことになりました。2020年度まで各回次合計の応募者数は増加が続いていましたが、昨年度は減少、今年度は昨年並みです。合格最低点は本稿執筆時点で未公表ですが、難度は昨年度並みでしょう。

国立の千葉大附属は、2020年度から一般入試を大きく変更しました。2019年度までは4教科でしたが、それを1次で書類選考を実施、書類選考の合格者が2次を受験する2段階選抜になっていて、1次の書類選考は、小学校の報告書だけでなく「自己アピール申請書 (必要に応じて資料添付可)」も提出、2次はこの自己アピール申請書の内容に基づいたプレゼン、作文、総

合問題で、昨年度、今年度ともコロナ禍対応で実施が見送られましたが、本来は集団討論もあります。今年一般の女子の応募者の増加が目立ちました。男子と帰国は昨年並みです。補欠も出ていますから、難度は例年並みだったようです。

### 3. 八千代市～成田市方面

成田高附属は、2020年度は12月の第一志望入試、1月の一般入試とも応募者が増えていましたが、昨年度は前年度並みと言ってよい応募者数で、今年度は減っています。人気が一段落したようです。合格最低点は第一志望入試、一般入試ともやや下がっていますが、出題内容の影響でしょう。難度はあまり変わっていないようです。

八千代松陰は12月の学科推薦の選択科目を1教科から2教科増やし、1月21日午前の1教科選択入試では英語選択を取りやめました。2020年度、昨年度と、各回次合計の応募者数が減っていましたが、今年度は増加して、人気を上向いています。1月20日、21日の入試では女子の応募者の増加が目立ちました。12月の推薦入試と1月25日の入試の合格最低点は昨年度並みですが、20日、21日は少し上がっていて、出題内容との関係はありますが、やや難化しているようです。

秀明八千代は小規模な入試の学校で、曜日関係で一部の入試日程を変更しています。昨年度は各回次合計の応募者数が増えていて、今年度は昨年度並みです。合格最低点は公表されていませんが、各回次とも難度は動いていないようです。

### 4. 房総地区

この地区の各校は寮を設置していて、他の学校とは性質が異なっています。君津市の翔凜は、昨年度増加した第一志望の推薦入試の応募者が少し減って、一般入試はやや増えているので、各回次合計の応募者数は昨年度並みでした。難度も変わっていないようです。今年度も小規模な入試でした。

木更津市の暁星国際は1月26日午前のI期Cを取りやめたほか、一部の入試日程や科目選択を変更しています。同校も小規模な入試で、本稿執筆時点では一部の入試結果が未公表ですが、公表範囲では昨年並みです。難度は変わっていないようです。志学館も曜日関係で一部の入試日程を変更しています。例年小規

模な入試ですが、各回次合計の応募者数は少し減りました。今年度も小規模で、難度にも変化はなかったようです。

2020年度、茨城県行方市から大多喜町に移転した三育学院は、本稿執筆時点で入試結果は未公表でした。

### 5. 常磐・北総・T×線方面

昨年度共学化、校名を聖徳大学附属女子から変更した光英VERITASは、1月22日午後の算数1教科入試を取りやめました。共学化した昨年度は大人気で、女子だけで前年度の1.8倍、男女合計では3倍を超える応募者数の大人気になりました。2年目の今年度も人気は継続、各回次合計で昨年度の5割増しを超える応募者数です。1月20日午後の特待算理入試と24日午前の特待入試は、その性格上ほぼ昨年並みの合格最低点で難度に変化は見られず、20日午前の適性検査型は少し下がっていますが、これは出題内容の影響でしょう。こちらも難度はあまり変わっていないようですが、12月の第一志望入試、1月20日午前と22日の1・2回、22日午後の英語入試は合格最低点が上がっていて、少し難化しています。応募者の増加がレベルアップにつながっています。

芝浦工大柏はグローバルサイエンスクラスと一般クラスの2コース制です。特に入試に変更点はありません。2020年度は1・2回の男子の応募者が増加、女子と課題作文入試は男女とも前年度並みの応募者数、昨年度は1回の男子がやや増加、女子は前年度並み、2回と課題作文入試は男女とも少し応募者が減っていました。今年度は女子が各回次とも昨年度並み、男子は1・2回とも増加が目立ちます。男子の課題作文入試は昨年度並みです。合格最低点は1・2回とも一般が上昇、難化しています。グローバルサイエンスもやや上がって、少し難化したかもしれません。課題作文は特に難度に変化はなかったようです。

専修大松戸も特に入試に変更点はありません。4年間各回次合計の応募者数がほぼ一定の水準でしたが、昨年度は1月20日の1回が前年度並み、26日の2回と2月の3回は男女とも少し減っていました。今年度は1回が男女とも応募者が増加、2・3回は男子が増加したものの、女子は昨年度並みでした。男子は1回不合格者の再挑戦が2・3回の応募者数につながったものの、女子は再挑戦が少し減って、併願の他校に向かっ

た受験生が少し増えているようです。合格最低点は1回が上昇、2回が少し下がり、3回は少し上がりました。1回は少し難化したようです。2・3回は出題内容と得点分布の影響でしょう。難度はあまり変わっていないようです。

麗澤はAE、EEの2コース制で、今年度は特に入試日程や科目に変更はありません。2019・2020年度と各回次合計の応募者数は増加が続きましたが、昨年度は1月21日の1回が前年度並み、25日の2回が減少、28日午後の3回は増加、2月1日午後の4回はやや減少と、回次によって動きに違いが見られました。今年度は各回次とも女子の受験生が増えています。男子は昨年度並み、一部に少し増えている回次も見られますが、女子の人气が目立った結果でした。合格最低点は1回と4回が昨年度並みで、難度に変化は見られませんが、2回と3回はAE・EEとも上昇、少し難化したようです。

二松学舎大附属柏はグローバル・特選・選抜の3コース制でしたが、今年度からグローバル探究と総合探究の2コース制に改編しました。また、入試の設定も一部の日程の変更のほか、第一志望入試での表現力検

査を自己アピールに切り替えるなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は隔年的に増減していて、今年度は順番通り増えました。1月20日午後が昨年並みの応募者数ですが、他の回次は増えています。実際の受験者数、合格者数も増えました。本稿作成時点で合格最低点は公表されていませんが、グローバル探究コースは昨年の特選コース並み、総合探究コースは昨年の先発コースとあまり変わらない難度だったようです。

西武台千葉は小規模な入試の学校です。今年度は1科目特待入試を新設、各回次合計の応募者はかなり増えました。野田市周辺でも中学受験が拡大しています。ただ、通学範囲が狭いこともあって、今年度も小規模は脱しておらず、難度もあまり変わっていないようです。

なお、この地域には2023年度に流通経済大学附属柏高校が中学を開校して中高一貫教育を開始する予定です。人気の動向に変化が生じるかもしれません。

## MEMO